

# お金のデザイン・リキッド・オルタナティブ・ファンド (円ヘッジあり)

追加型投信／内外／資産複合

## 交付運用報告書

第1期(決算日2020年9月10日)

作成対象期間(2020年6月19日～2020年9月10日)

第1期末(2020年9月10日)	
基準価額	10,337円
純資産総額	3,408百万円
第1期	
騰落率	3.4%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。
- 右記弊社ホームページの「THEO投信をご利用のお客様」から当ファンドのファンド名を選択することにより、当ファンドの「運用報告書(全体版)」を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「お金のデザイン・リキッド・オルタナティブ・ファンド(円ヘッジあり)」は、このたび第1期の決算を行いました。当ファンドは、主として投資信託証券に投資し、リスクを最小限に抑えつつ、長期的に安定した収益の確保と投資信託証券財産の成長を目指して運用を行います。当期につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## お金のデザイン

東京都港区赤坂1丁目9番13号

<照会先>

電話番号：03-6629-7090

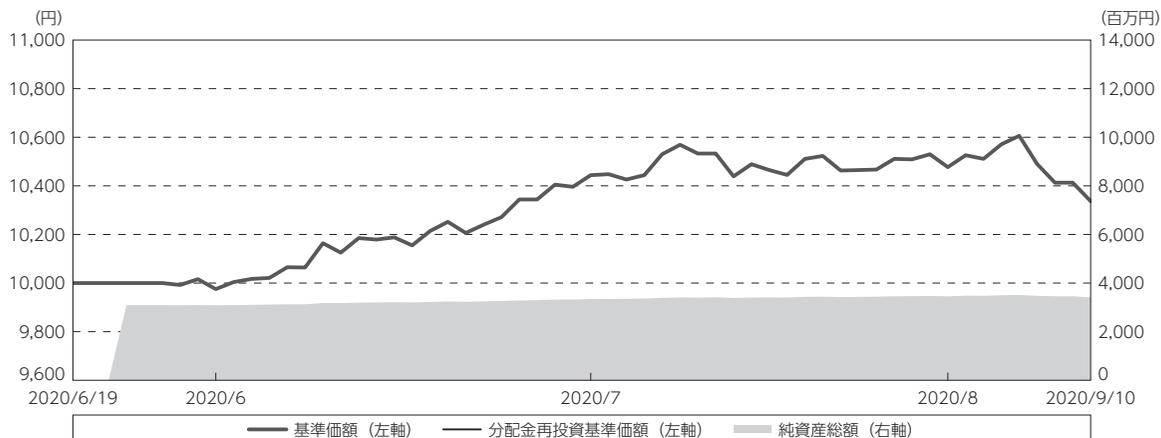
(受付時間：委託会社の営業日の9：30～17：00)

ホームページ：<https://www.money-design.com/>

## 運用経過

## 期中の基準価額等の推移

(2020年6月19日～2020年9月10日)



設定日：10,000円

期 末：10,337円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率： 3.4% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対して適切に比較できる指数がないため、ベンチマークならびに参考指数は表示しておりません。

## ○基準価額の主な変動要因

DBi リキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド-JPY クラス A シェアーズ (以下「DBi ポートフォリオ」といいます) は2020年6月23日に設定され、2020年9月10日までにおいて、手数料控除後で+3.92%のパフォーマンスとなりました。為替ヘッジ控除前の米ドルベースのパフォーマンスは+4.38%となりました。

同期間におけるHFRXグローバル・ヘッジファンド・インデックスとMSCIワールド・エクイティ・インデックスはそれぞれ2.49%、6.76% (米ドルベースのパフォーマンス) でした。

## 1万口当たりの費用明細

(2020年6月19日～2020年9月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	16	0.152	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	(14)	(0.139)	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	( 1)	(0.008)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 1)	(0.005)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	0	0.000	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲人に支払う手数料
( 投 資 信 託 証 券 )	( 0)	(0.000)	
(c) そ の 他 費 用	3	0.024	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	( 0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( そ の 他 )	( 2)	(0.021)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	19	0.176	
期中の平均基準価額は、10,298円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

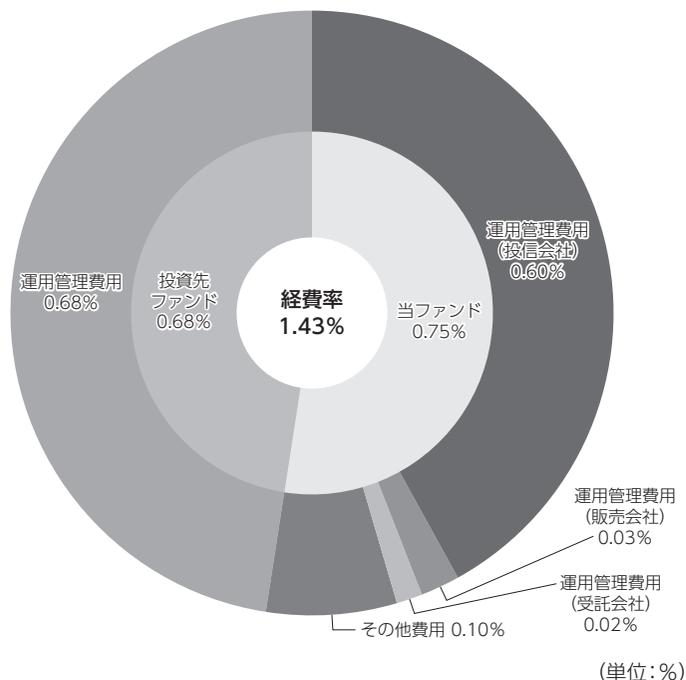
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.43%です。



経費率 (①+②)	1.43
①当ファンドの費用の比率	0.75
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.68

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2015年9月10日～2020年9月10日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。  
 (注) 当ファンドの設定日は2020年6月19日です。

	2020年6月19日 設定日	2020年9月10日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,337
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	3.4
純資産総額 (百万円)	0.1	3,408

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。  
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。ただし、単位未満の場合は小数で記載しております。  
 (注) 設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2020年9月10日の騰落率は設定当初との比較です。  
 (注) 当ファンドの運用方針に対して適切に比較できる指数がないため、ベンチマークならびに参考指数は表示しておりません。

**投資環境**

(2020年6月19日～2020年9月10日)

グローバル株式市場は第一四半期(2020年1月～3月)のコロナ禍の影響を受け大きく下落しましたが、第2四半期、更には2020年8月の終わりまでに反発しました。特に8月のナスダック総合指数は1か月間において11.2%上昇し、年初来で+39.5%となりました。米国の中小型株式市場やグローバル株式市場の多くは依然として年初来マイナスで推移しているため、このパフォーマンスには目を見張るものがあります。この差はコロナ禍と経済的ロックダウンが不均一な影響を及ぼしていると考えられます。ハイテク株銘柄の一部は新高値に急上昇した一方で、小売、サービス、旅行、そしてエネルギー関連銘柄などには破産申請が多く見受けられます。さらに、米国は実質ゼロ金利政策を維持することを決定したため、これがさらにバリュエーションの高いグロース株式にとって追い風になっています。

長年にわたりバリューストックはグロース株に対して低迷していますが、年初来で比較するとそのパフォーマンスの差は30%を超えています。一部の市場関係者は過去のチャートを引き合いに出し、バリューストック指数をグロース株指数で割った数値は1999年の水準まで下がっていると説明しています。そうした中、9月に入りナスダック総合指数は株式市場の歴史上最も速い株価調整の1つを経験しました。おかげでバリューストックマネージャーは、9月最初の数日間は少し安堵することが出来ましたが、株式市場の歪みはインフレ懸念が高まっている債券市場や健全性に懸念が広がっている米ドル為替市場にも波及しています。

**当ファンドのポートフォリオ**

(2020年6月19日～2020年9月10日)

この投資信託は、主として投資信託証券に投資し、リスクを最小限に抑えつつ長期的に安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。主要投資ファンドであるDBiポートフォリオの詳細は以下になります。

**ヘッジファンド・ポートフォリオ (DBiポートフォリオの約60%を構成)**

ヘッジファンド・ポートフォリオは設定来から2020年9月10日までに為替ヘッジ控除前の米ドルベースのパフォーマンスで+5.13%となりました。同期間におけるHFRXグローバル・ヘッジファンド・インデックスは+2.49%(米ドルベースのパフォーマンス)でした。当該期間中、ヘッジファンド・ポートフォリオは一貫して株式市場へのエクスポージャーを維持したため、株式市場の反発から利益を上げることが出来ました。

ヘッジファンド・ポートフォリオはヘッジ・ファンド・リサーチ社(HFR)が公表する預かり資産上位50社のうち、株式ロング/ショート戦略、レバティブ・バリューストック戦略、およびイベントドリブン戦略のヘッジファンドで構成され、各ヘッジファンドが投資する、主に株式、金利、通貨市場のコアとなる各ポジションの投資ウェイト(コア・ファクター・ウェイト)を抽出し、これらで構成されたポートフォリオのパフォーマンスを複製するように設計されています。DBi社は、一般に複数のヘッジファンドで構成されるポートフォリオの費用等控除前のパフォーマンスのうち、その約80%はコア・ファクター・ウェイトから導き出され、残りの約20%は個別銘柄選定と非流動性プレミアムから生じるという投資概念のもと運用を行っています。様々な市場環境を通じて、高い確率でこの複製手法は費用控除後のポートフォリオのリターンを上回り、さらに市場の急変時やリスクオフ期間が継続するような状況においては、上記の20%の部分も不調となることが多く、その結果、当該ヘッジファンド・ポートフォリオは実際のヘッジファンドで構成されるポートフォリオよりも小さい下落幅になる確率が高くなると考えています。

当該期間中、ヘッジファンド・ポートフォリオはグローバル株式に傾斜しつつ株式全般的に一定のウェイトを維持しました。前述の通り、ナスダック総合指数は年初来で他の株式市場を大きく上回っていますが、新興国株式市場だけは例外で、ナスダック総合指数を上回って推移しています。この1年でヘッジファンドの多くは、より良い投資機会と安い取引コストを求め新興国株式市場に触手を伸ばしています。これがヘッジファンド・ポートフォリオがグローバル株式に対して傾斜した理由の1つになります。またヘッジファンド・ポートフォリオは運用開始当初米ドルをショートしていましたが、その後当該ポジションをほぼ精算しました。同様に、債券市場においても当初30年米国債をロングしたものの、8月に入りポジションを半分に落としました。これらポジションの戦術的シフトは当該期間を通じて米ドルが下落したこと、債券市場も当初は反発していたものの、8月に米国金利が上昇したことによります。

### CTAポートフォリオ (DBiポートフォリオの約40%を構成)

CTAポートフォリオは設定来から2020年9月10日までに為替ヘッジ控除前のパフォーマンスで+3.37%となりました。同期間における仏ソシエテ・ジェネラル社 (SG) が管理・公表するSG CTAインデックスは+0.68% (米ドルベースのパフォーマンス) でした。

CTAポートフォリオはSG CTAインデックスに採用される、預かり資産上位20社で構成されたポートフォリオのパフォーマンスを複製するように設計されています。ヘッジファンド・ポートフォリオに使用されるモデルと比較して、マネージド・フューチャーズ・ヘッジファンド (CTA) の複製は2つの点でより大がかりなものとなります。まず、マネージド・フューチャーズ・ヘッジファンドは個別銘柄株式や非流動資産のいずれにも投資しないことから、リターンの方が前述の「コア・ファクター・ウェイト」で説明することが出来るため、費用等控除前のリターンの100%が複製の目標になります。さらに、DBi社の調査によると、マネージド・フューチャーズ・ヘッジファンドは取引の回転数が比較的多いことから過剰な取引コストが発生し、パフォーマンスを低下させる要因になっています。DBi社はコア・ファクター選定と取引の回転数を慎重に管理することにより取引コストをできるだけ低く保つよう努め、年率300~400bpsの超過リターンを取引コスト控除後で実現することを目指しています。また重要なこととして、20社のCTAで構成されたポートフォリオのパフォーマンスを複製することにより、CTAポートフォリオは、単一マネージャーの「左ファットテール」リスクの軽減を目指しています。

CTAポートフォリオは、ヘッジファンド・ポートフォリオよりもタクティカルな手法となります。これは長期かつ戦術的になりがちなファンダメンタル分析からのポジショニングをベースに収益化を目標とするのではなく、様々な資産クラスのトレンドをキャプチャすることから収益化を目指しているからです。フィアット通貨の上昇に伴うインフレ懸念の台頭から2020年は金 (ゴールド) が上昇しています。予想通り、CTAポートフォリオは、設定来から金をフル・ポジション維持しており、当該期間のパフォーマンスに最も貢献しました。また設定時には株式ポジションはほとんどありませんでしたが、徐々にグローバル株式や新興市場株式のポジションを積み上げた結果、株式相場の上昇による恩恵を受けました。直近では、米国株式市場の上昇により、保有するこれらの株式ポジションは米国株式のポジションに移行され始めています。

**当ファンドのベンチマークとの差異**

(2020年6月19日～2020年9月10日)

当ファンドは、運用方針に対して適切に比較できる指数がないため、ベンチマークならびに参考指数は設定しておりません。

**分配金**

(2020年6月19日～2020年9月10日)

当期の分配金は、長期的な投資信託財産の成長を追求する観点から無分配とさせていただきます。また、収益分配に充てなかった利益につきましては信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

**○分配原資の内訳**

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第 1 期
	2020年6月19日～ 2020年9月10日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	337

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

ヘッジファンドやCTAの現在のグローバル・コンセンサスは、「FRBと闘うな」と市場ではささやかれています。また、新型コロナ・ウイルスに対する医学的解決策が数年ではなく数か月で利用可能になるという楽観論も台頭しています。一方で、他の書簡では、市場コンセンサスの見方が絶えず変化しているとも指摘しています。過去5年間を振り返ってみても、中国経済の動向により世界経済は大きく揺さぶられました。

2017年までの世界経済成長、2018、2019年の世界経済の減速、2019年後半からの楽観論の復調、2020年のコロナ・パンデミックによる世界的不況など、これら全て中国経済にシンクロしています。

そして、今は終わりの見えない景気刺激策による景気回復の兆しなどが語られています。ただしここから重要になってくるのは、さまざまな異なる方向性が世界中に常に存在することです。そして投資家は、世界経済が今日のコンセンサス・ビューとは異なる明日になると予想するべきです。この秋、私たちは株式バリュエーションの不穏な高止まりや、潜在的に市場に不安定要素を与えるであろう米国大統領選、コロナ禍の再拡大、その他のマクロ経済の逆風などに直面しています。この不確実性を考えると、分散投資、リスク管理、そして流動性の確保—この投資戦略の中心的な信条—は、今まで以上に重要になっています。

投資家は日次の流動性とそれに見合う手数料を内包するヘッジファンドに対するエクスポージャーを取得する方法の問題に長年取り組んできました。過去数年間、流動性のある広義のオルタナティブ投資の分野に資金が流入しています。グローバルなマルチアセット型戦略やオルタナティブ・リスク・プレミア戦略、そして少数のヘッジファンドで構成された集中型ヘッジファンド・ポートフォリオなどです。残念ながらこれらの戦略の大半は実際のヘッジファンドのパフォーマンスを大きく下回っています。そのため投資家は流動性のためにリターンを犠牲にしなければならないという考えに落ち着いてしまいました。DBi社が行う本戦略は、流動性のない高コストのヘッジファンドと比較してよりシンプルな商品で相対的に優位なパフォーマンスとアルファを投資家は享受することが出来ると信じています。多くの投資家が予想するように、伝統的な資産クラスから得られるリターンは減少の一途をたどっていますが、当該戦略のように手数料削減効果によってアルファを維持することが出来れば投資家の長期的な投資目標を達成するのを助けることが出来るかもしれません。

## お知らせ

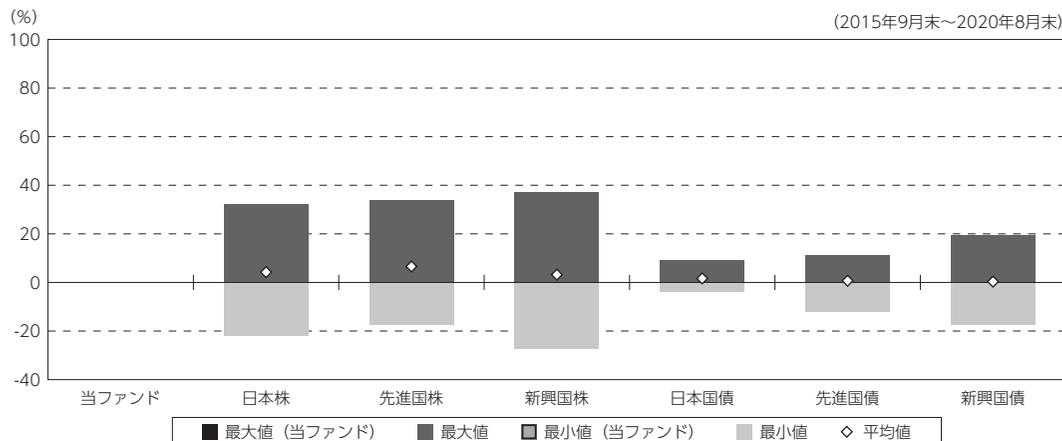
該当事項はございません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	原則として、無期限です。(設定日：2020年6月19日)
運用方針	主として投資信託証券に投資し、リスクを最小限に抑えつつ、長期的に安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	ケイマン諸島籍の外国投資法人「DBi リキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド-JPY クラス A シェアーズ」円建て投資信託証券（運用：ダイナミック・ベータ・インベストメンツ・エルエルシー）」ならびに国内上場投信「NEXT FUNDS 国内債券・NOMURA-BPI 総合連動型上場投信」を主要投資対象とします。
運用方法	主として米国・欧州の上場先物市場とETF（上場投資信託証券）に実質的な投資を行い、ヘッジファンドリサーチ社（HFR）が公表する預かり資産上位50社で構成されるヘッジファンド・ポートフォリオのパフォーマンスならびにマネージド・フューチャーズ業界を代表する上位20社のCTAポートフォリオのパフォーマンスの複製を目指した運用を行います。
分配方針	毎年9月10日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づき収益分配を行います。ただし、必ず分配を行うものではありません。

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	-	32.2	34.1	37.2	9.3	11.4	19.3
最小値	-	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	-	4.2	6.6	3.2	1.6	0.7	0.3

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2015年9月から2020年8月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドにつきましては、運用期間が1年未満であるため掲載しておりません。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

## 各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株・・・MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債・・・JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

※詳細は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2020年9月10日現在)

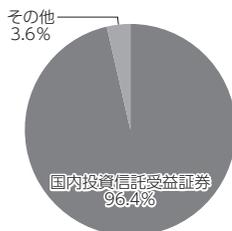
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第1期末
	%
DBI リキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド・JPY クラス A シェアーズ	96.4
NEXT FUNDS 国内債券・NOMURA-BPI 総合連動型上場投信	0.0
組入銘柄数	2銘柄

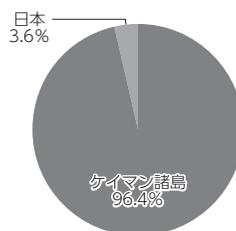
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

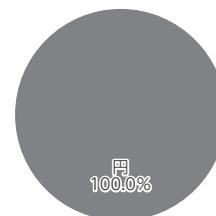
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資信託受益証券及び国内投資証券には外国籍(邦貨建)の証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## 純資産等

項目	第1期末
	2020年9月10日
純資産総額	3,408,783,327円
受益権総口数	3,297,637,640口
1万口当たり基準価額	10,337円

(注) 期中における追加設定元本額は3,400,503,377円、同解約元本額は102,965,737円です。

## 組入上位ファンドの概要

### DBi リキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド-JPY クラス A シェアーズ

当ファンドの第一回決算日が2021年3月31日のため、当運用報告書作成時点において、開示できる情報はございません。

## NEXT FUNDS 国内債券・NOMURA-BPI 総合連動型上場投信

## 【基準価額の推移】

(2020年3月8日～2020年9月7日)



## 【100口当たりの費用明細】

(2020年3月8日～2020年9月7日)

当該期間の100口当たりの費用明細については  
開示されていないため、掲載しておりません。

以下は「国内債券NOMURA-BPI総合 マザーファンド」の決算日時点の内容です。

## 【組入上位10銘柄】

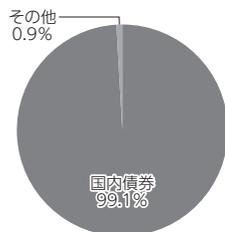
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率 %
1	国庫債券 利付(10年)第334回	国債証券	円	日本	1.1
2	国庫債券 利付(5年)第130回	国債証券	円	日本	1.1
3	国庫債券 利付(5年)第129回	国債証券	円	日本	1.0
4	国庫債券 利付(10年)第351回	国債証券	円	日本	1.0
5	国庫債券 利付(10年)第343回	国債証券	円	日本	0.9
6	国庫債券 利付(10年)第353回	国債証券	円	日本	0.9
7	国庫債券 利付(5年)第133回	国債証券	円	日本	0.9
8	国庫債券 利付(10年)第341回	国債証券	円	日本	0.9
9	国庫債券 利付(5年)第137回	国債証券	円	日本	0.9
10	国庫債券 利付(10年)第350回	国債証券	円	日本	0.9
組入銘柄数			1,083銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

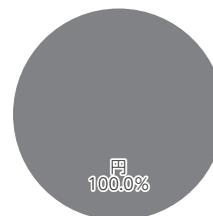
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## ○代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

### ○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

### ○MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

### ○MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

### ○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村証券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村証券株式会社に帰属します。

### ○FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

### ○JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。